

# 苦小牧民報

発行所 苦小牧民報社 〒053-8611 苦小牧市若草町3丁目1番8号 代表電話 0144(32)5311

月決め購読料(税込み)2,440円(1部120円)

苦小牧



15時

- 厚真 Jr. サークラブ練習開始 2
- 北方4島 水産や観光の事業化探る 4
- 将棋 藤井4段、前人未到の29連勝 5
- ルー・フォーライフ 応援ムード広がる 19

## 市民ホール検討作業3年目 苦小牧市

# 24年度の開設目指す

## 今年度中に基本計画策定

苦小牧市は、新複合施設「市民ホール(仮称)」のオープンを目指す。2024年度とし、今年度中に建

設地や施設規模などを盛り込んだ基本計画をまとめる方針だ。建設地に関しては、苦小牧東中学校敷地内へ移設する苦小牧東小の跡地を基本としており、具体的な施設の機能や建設スケジュールも示す。一方、市民アンケートの結果、市民ホールの建設について回答者の約半数が「全く知らない」と答えるなど、施設建設をめぐる市民の理解をどう図っていくのかも今後の課題になりそうだ。



市民会館周辺の模型を囲んで市民ホールの在り方を話し合う検討組織のメンバー＝26日、苦小牧市役所

市民ホール構想は、築50年近かつ苦小牧市民会館の建て替え検討の中で浮上。老朽化した周辺の公共施設と統合した複合施設とし、文化会館や労働福祉センター、交通安全センターが統合施設として検討されている。施設建設に向けて市は15年度、市民や有識者で構成する検討委員会を設置。「親近感と愛着を持つ憩いのプラザ(公共の広場)など施設のテーマを示した基本構想をまと

## アンケートから 市民の関心高くないことも浮き彫り

23年度までに建設、24年度オープンを想定している。建設地については苦小牧東中敷地への移転後の苦小牧東小跡地(約2・8畝)を基本とし、事業費は100億円以内とする考えだ。大規模投資の公共事業となる一方、市民ホール建設に対する市民の関心は決して高くない課題も浮き彫りになっている。

26日に市役所で開いた市民ホール建設検討委員会では、市が3日にイオンモール苦小牧で開いた市民ホール周知イベントでの来場者アンケート結果を報告。市民208人から回答を得たが、この中で市民ホール建設について回答者の47%が「全く知らない」とし、「知っている」は32%、「聞いたことはある」は15%にとどまったことが分かった。検討ワーキンググループの緒方共さん(45)＝植苗は「市は市民の意見を聴きながら丁寧に進めてきている

## 北極海航路の船舶寄港で講演会 ハブ港化の可能性や課題考える 苦小牧港管理組合



港湾関係者が北極海航路について理解を深めた講演会

苦小牧港管理組合は26日、苦小牧市入船町のハーバービルで、北極海航路に関する講演会を開いた。港湾関係者60人が出席。官民組織「北極海航路研究ワーキング」が道内拠点港(ハブ港)として活用を目指す苦小牧港の可能性や

ど、友達などに話しても正直、知らない人が多い」と話した。市民周知の面で課題を抱えている中、市は今後、市民会館周辺模型や利用アイデアのイラストパネルの展示など周知活動を進め、秋ごろには市民対象の大規模ワークショップも開く予定。市民ホール建設準備室の用田史門室長は「より良い施設になるよう、市民の関心を高める努力をしていきたい」としている。

## 携帯電話、パソコン回収へ

### 苦小牧市も「メダルプロジェクト」に参画

## 回収 ボックス設置



社・マテック苦小牧支店(市内弁天)と連携し、処理工程などを考慮して携帯電話とパソコンの2品目を回収する方針。市役所1階ロビーに専用回収ボックスを設置し、のぼりなども掲げてPRしていく。市内のイベント会場でも回収拠点を設け、市民に提供を呼び掛ける。携帯電話とパソコンの受け付けは、全国でメダル5000個分の原料が集まり次第締め切る。

## 大東開発 西港前のビル建設断念 「採算性合わない」と判断

苦小牧市の不動産業、大東開発(三浦美社長)は、苦小牧港・西港近くの旧ホテルイーストジャパン跡地に市内入船町で来年開設を予定していた7階建て複合ビルの建設を断念した。オフィスや賃貸住宅の他、最上階に展望レストランを設ける複合ビルとして整備する方針だったが、採算性が合わないかと判断した。跡地利用について三浦社長は「今後検討していく」と話している。

## 新たな物流の仕組みに意欲

### 苦小牧埠頭 橋本社長、就任あいさつで来社

港湾運送・倉庫業の第三セクター、苦小牧埠頭の橋本哲実社長(61)が26日、就任あいさつで苦小牧民報社を訪れた。来年春季に着工し、2019年度の供用開始を目指す大型冷蔵倉庫を中核とした道内物流の新たな仕組みを創出する意欲を示した。23日の株主総会と取締役会で就任した橋本社長は、大型冷蔵倉庫について「当社が創業以来売ってきた倉庫、同

## 夕刊時評

### 高校野球

第99回全国高校野球選手大会の支部予選が道内で行われている。夏の甲子園につながる道のりは、白ばつりの一発勝負。球技は真剣なまなざしで白球を追って常に全力疾走の姿は見ている方まで羨ましい気持ちにさせられる。

当方も新人のころ以来、約20年ぶり校野球を取材している。経験が役に立ち、記憶を呼び起こしたが、正直に書きたい思いが強い。当時はまだワイドの時代、原稿を球場から会社に送るの四苦八苦した。締め切り時間その分なくなり、スコアブックの付け方もまだなかった。今は通信環境も段違いに向上。快適に取材できる。それはさておき取材をしていて感じるのは球児たちの礼儀正しさ。球場では違ふ一人一人に大きな声であいさつを取材でうらやましている記者に対して例外ではない。大会の運営は当番制で

